

東京同友会イラン情勢対策かわらばん VOL10

原油調達の多角化と備蓄による補完

令和8年5月12日
経済産業省中東情勢に伴う重要物資の安定的な供給確保のためのタスクフォース

代替調達率
4月時点：
約25%
(59万バレル/日)

5月時点：
約60%
(140万バレル/日)

6月見込：
70%以上
(165万バレル超/日)

中東依存を脱し、米国（前年比8倍）やアジア等へ調達先を急速に分散

国家備蓄の放出による供給不足の解消
代替調達で賄えない日量約50~75万バレル分を、政府が備蓄放出で補う

資源・燃料が安く安定的に手に入る時代の終わり

物資不足への対策と優先供給



「流通の目詰まり」発生
在庫確保のための大量発注や買い占めにより、一部地域で深刻な不足感



社会インフラ分野への優先供給を徹底
医療、食品、交通などの重要分野を優先し、一般企業には前年同月並みの購入を要請

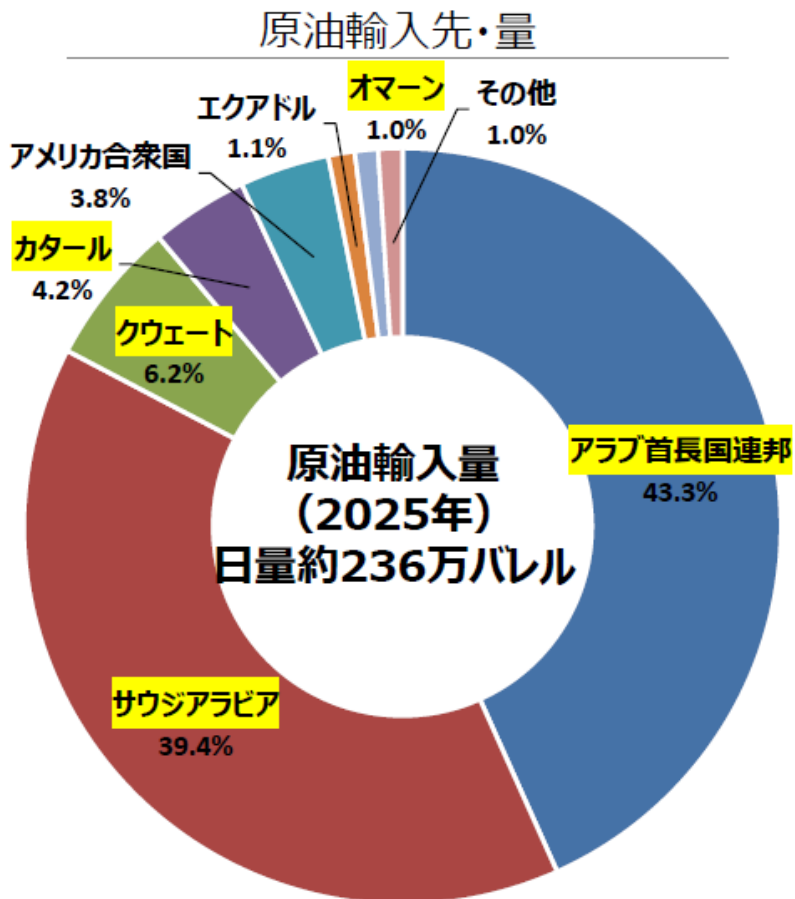
ガソリン価格 本来190円超
170円程度に抑制

政府の巨額補助金によって強引に抑え込んでいる状況



日本の原油調達はホルムズ依存度が高い
 ※地政学的な対立のない日本は産油国との関係は極めて良好

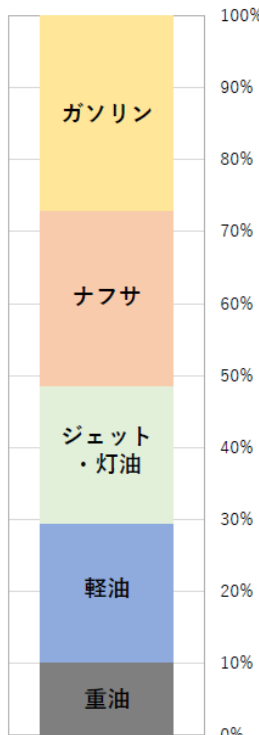
代替地からの調達がすすむが原油といっても内容は同じではない。日本の設備は中質から重質用



中東依存度 : 94.0%
 ホルムズ依存度 : 93.0%

原油の種類と、製品の割合

国内需要割合



- ①原油の「性状」次第で、ガソリン、灯油ジェット、重油等を「生産できる製品割合」が異なる。
- ②「性状」は、API(原油の重さ・軽さ)、硫黄・重金属の量などがある。

1) 軽質な原油

(例: 米国WTI原油など)
 軽いためガスなどが多く、
ガソリン、灯油やジェット燃料を多く生産できない

2) 中質な原油

(例: 日本でメジャーなUAEマーバン原油など)
 製油所の常圧蒸留装置(トッパー)からしか作れない
灯油やジェット燃料を多く生産するために必要

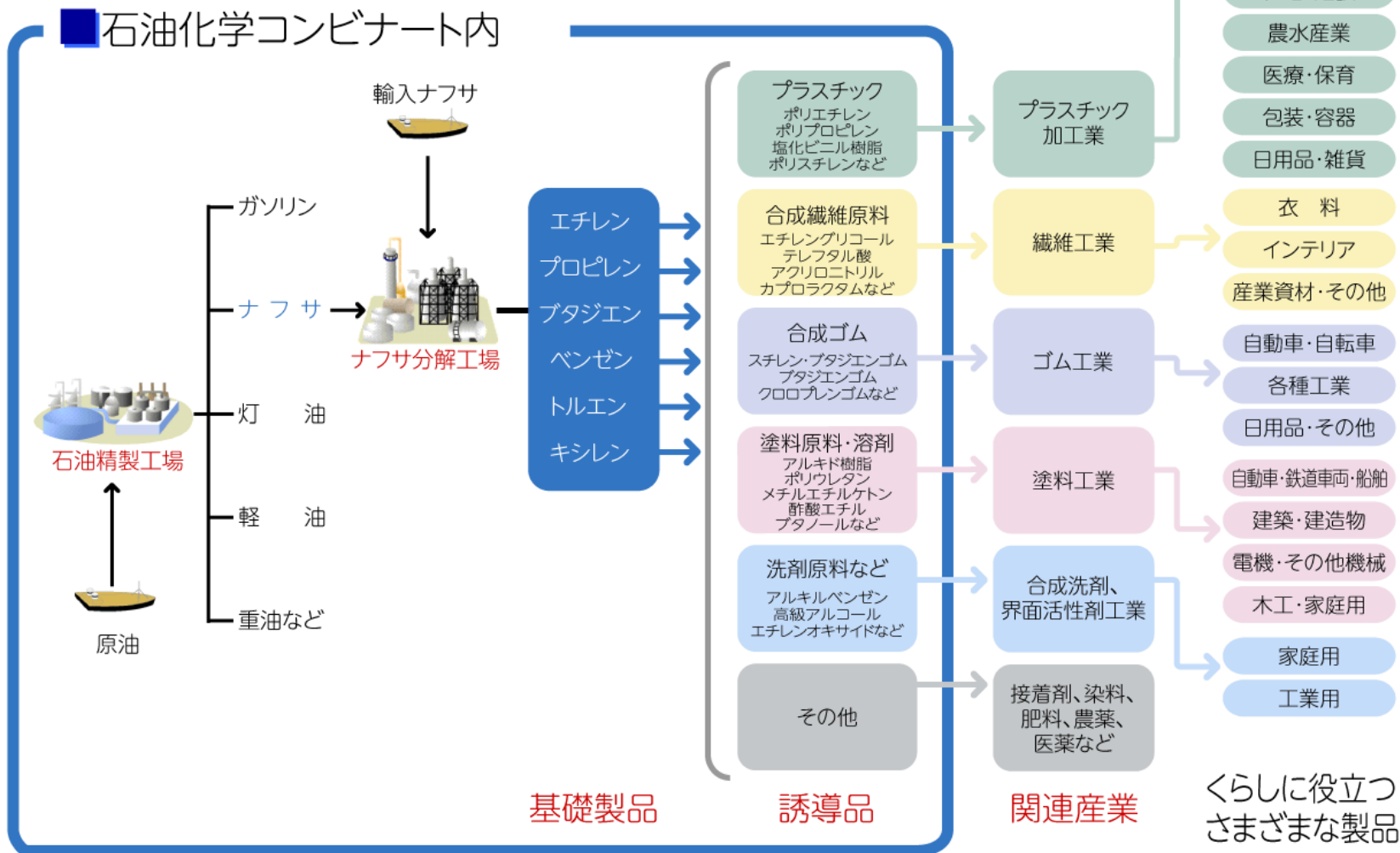
3) 重質な原油

(例: クウェート原油など)
 製油所にある複数の装置を用いることで、
ガソリンは生産しやすい

各種石油製品をそれぞれ安定供給していくためには、
「需要に適した割合」で生産できる原油を処理していくことが必要

ナフサの不足や高騰の影響は多岐に及ぶ

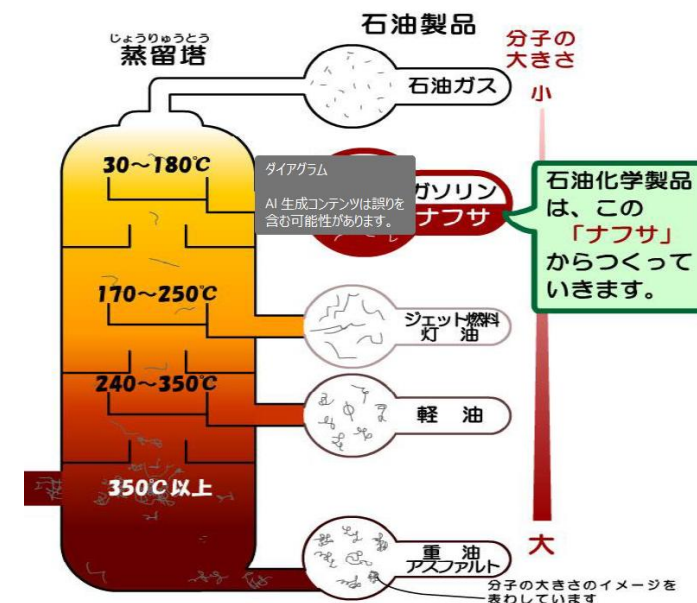
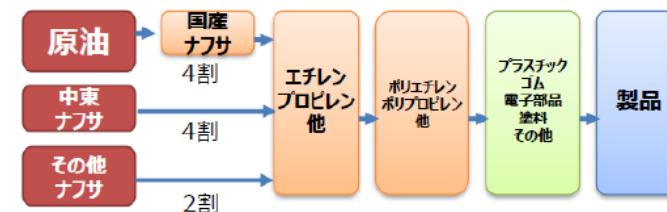
ナフサはエチレン、プロピレン、ブタジエン、ベンゼン、トルエン、キシレンなどあらゆる商品を生み出す基礎製品



ナフサの調達元 (2024年)

国産	中東 (UAE, クウェート、 カタール等)	その他 輸入
39.4%	44.6%	16.0%

石油化学のサプライチェーン



最短でも9月、10月までこの状況は続き、 その後も資材価格の高騰は持続的なものになる。

プラスチック

ポリエチレン・ポリプロピレン・塩化ビニル樹脂など



電気製品・フィルム・文具など

合成繊維原料

エチレングリコール・テレフタル酸・アクリロニトリルなど



シャツ・セーター・テント・毛布など

合成ゴム

ブタジエンゴム・クロロプレンゴムなど



自動車タイヤ・ベルト・くつなど

塗料 原料など

アルキド樹脂・ポリウレタン・酢酸エチル・ブタノールなど



インク・ペンキなど

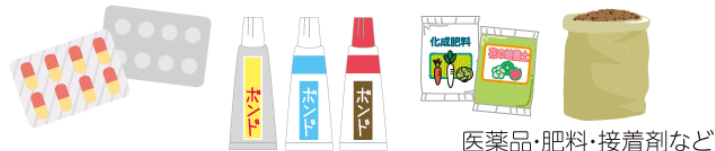
合成洗剤原料など

アルキルベンゼン・高級アルコール・エチレンオキサ이드など



洗剤・シャンプー・化粧品など

その他



医薬品・肥料・接着剤など

目詰まり解消はもぐら叩き！ 各社の情報提供が有効 ②へ連絡！



一時的な需給逼迫防止のため、
前年同月比同量を基本とした購入にご協力をお願いします。

※商品の在庫状況は販売者により異なります。
販売者から、別途、購入に関する案内がある場合は、そちらもご確認ください。

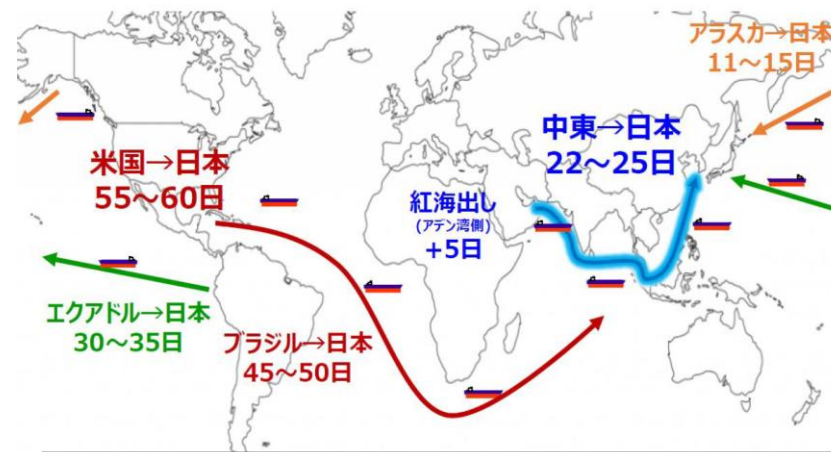


調達について**お困りの場合は**、
QRコードの**経済産業省（中東情勢
関連対策ワンストップポータル）**まで、
情報提供をお願いします。



イラン情勢が解決しても輸送期間分+2か月は解決に時間が必要

VLCC(大型原油タンカー)の所要航海日数



航海日数の長期化に伴い船腹需給はタイト化の方向 → 海上運賃上昇

中小企業を襲う「供給不足」の経営危機：需要はあるのに、材料がない

構造的な危機：需要不足から「供給不足」へ



83%

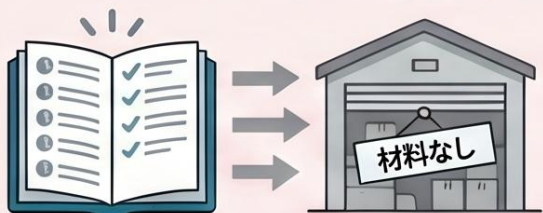
の中小企業に影響が拡大

すでに
影響が顕在化
(54%)

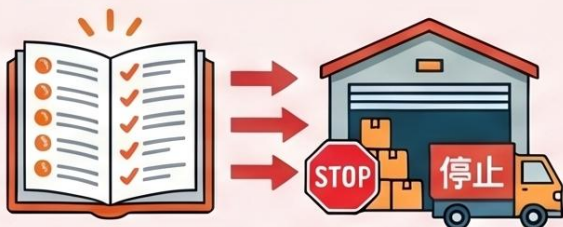
全く影響がない
(わずか4%)

影響
懸念

「仕事はあるが材料がない」という新局面



コロナ禍 (需要喪失)



現在 (供給制約)

製造業 (73.3%)・建設業 (67.6%) の深刻な停滞



中小企業の経営を圧迫している具体的な要因



顕在化する経営リスクと対応の限界

建設現場の停止から始まる「資金繰りの悪化」



着工延期・完成不能



工事代金が入らず



下請け倒産の連鎖が懸念

個社努力だけでは乗り越えられない限界



二次被害：サービス業への波及



1. 相談体制と資金繰りの確保



特別相談窓口へのアクセス

日本政策金融公庫や信用保証協会の窓口で、今後の対応や融資について相談する。



自治体による 資金繰り支援の活用

原油高や情勢不安による売上減少に備え、自治体の支援制度への申し込みを検討する。

2. 収益性維持と供給網の再構築



適切な価格転嫁の実施

コスト上昇分を販売価格に反映させるため、取引先との協議を速やかに開始する。



サプライチェーンの最適化

特定地域への依存を避け、燃料や資材の代替調達先を確保する体制を整える。



地域によって
独自支援策あり
所在地の自治体名
と支援融資で
キーワード検索



納期遅延や資材欠品から自社を守るための「盾」
メールの証拠化：取引条件の同意をメールで保存する
覚書の締結：口頭合意を书面化しておく
スライド条項の活用：価格変動を自動反映させる条項や、不可抗力要件の具体化。
取適法の活用：2026年1月施行の「中小受託取引適正化法」を根拠に、一方的な代金据え置きを拒絶し、
正当な価格転嫁を要求してください。

中東情勢の緊迫を商機に変える：日本の中小企業、生き残りへの「6つの転換」

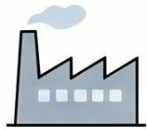
PROBLEM

露呈した脆弱性と価値観の転換

中東依存のリスク



90%超



ナフサ由来製品への
依存企業数

約4万7,000社



政府の対応策
特別相談窓口の設置、
資金繰り支援の拡充

「最安値」から「止まらない価値」へ



「最安値」から「止まらないに
懸念を大層たさない価値」へ

安定大量供給の時代が終わり、
柔軟性、近さ、代替性が新たな競争力に。

イラン情勢の緊迫は、中東依存度の高い日本の供給網に「コスト高」や「物流混乱」の危機をもたらしました。しかし、この危機は大量生産・重輸入の時代から、中小企業の「現場力」や「地域力」が武器になる「持続可能で分散型の供給」時代への転換点でもあります。

設問 今回のイラン情勢と その先に見える あなたの会社の チャンスとは？

イラン情勢の緊迫は、中東依存度の高い日本の供給網に「コスト高」や「物流混乱」の危機をもたらしました。しかし、この危機は大量生産・大量輸入の時代から、中小企業の「現場力」や「地域力」が武器になる「持続可能で分散型の供給」時代への転換点でもあります。

SOLUTION

中小企業が掴むべき6つの新ビジネス



国内回帰型製造と 代替素材へのシフト

踏納期・小ロット対応の国内工場や、
膜プラスチック等の代替素材需要が急増。

省エネ・DXによる 管理支援

燃料高騰対策の省エネ診断や、供給網を
可視化する「安くて簡単なDX」に商機。



地域密着サービスと 経済安全保障



「近くて調達・修理できる」備値が再評価
され、国際としての備蓄・防災要素も拡大。